

私の夢を育むマチ、妹背牛町



ズオン・ティ・フオン

ベトナム ビンフック省出身
 ハノイ法律大学民事法民法学科卒
 北光学園旭川福祉専門学校日本語学科卒
 2023年10月に妹背牛町地域おこし協力隊に着任
 (妹背牛町企画振興課所属)

【私の日本への道のり】

私は23歳まで母国ベトナムから出たことはありませんでした。私がハノイ法律大学に入学したのは、人気の日本語サークルに入りたかったことが理由です。でも、この日本語サークルは希望者が多く入ることができず、それでも4年間大学生活を送っているうちに日本語を学ぶために留学したいという気持ちが強くなりました。しかし、私が日本へ行く道は簡単ではありませんでした。始めは日本に行くことを親に反対されましたが、何度も説得し留学に同意してくれました。ですが今度は新型コロナウイルス感染症の流行によって、日本への入国ができず、1年間ほど待ち遠しい日々を過ごすこととなりました。その後、待ちに待っていた日本に行けることが決まり、大きな夢と希望を持って2022年5月に日本に来ました。

【北海道の美しさに魅せられた私】

友人に勧められ東川町にある旭川福祉専門学校に入学しました。寒さが苦手な私は、北海道で生活できるか心配でしたが、ベトナムでは見たこともない雪を初めて見て、とても感動し、心配も吹き飛びました。たくさんの雪の景色をスマホに収め、家族に送りました。北海道は、季節がはっきりしていて、空気がきれいで、食べ物も美味しく、私にとってとても魅力的な場所でした。春の桜、夏のラベンダー、秋の紅葉、冬の雪。季節が色で分かれていてとても素晴らしいです。北海道は広く、まだまだ行ったことの無い場所がありますが、すっかり北海道の美しさに魅せられました。

【地域おこし協力隊に応募したきっかけ】

旭川福祉専門学校の日本語学科で勉強していた時、先生に妹背牛町の地域おこし協力隊の仕事を紹介してもらいました。今、勉強している日本語を生かし、地域で働く母国の人たちの生活サポートや地域の方との交流事業などが仕事となるため、やりがいを感じてとても興味を持ちました。仕事の説明会に参加したときに、業務内容だけではなく、地域おこし協力隊の隊員たちのつながりを感じ応募することを決意しました。

【地域おこし協力隊の私の主な活動】

2023年10月から妹背牛町の地域おこし協力隊として着任しました。私は着任して数か月ですが、たくさんの活動に参加しました。地域の方々にベトナム料理を食べてもらう「ベトナムキッチン」。初めてベトナムの揚げ春巻き「ネムラン」を販売したときは、たくさんのお客さんが来てくれて、お話をしているうちに、150食分が僅か40分で売り切れてしまい、とても楽しくてうれしい気持ちになりました。



ベトナムの屋台料理を紹介する事業

また「ベトナム文化に触れてみよう」という事業では、ベトナムの屋台料理を町民の皆さんと一緒に作り食べました。小学校では、国際交流事業として、1・2年生にベトナムの伝統の遊び「バンブーダンス」を紹介し、子どもたちと笑って、踊って遊んでいる瞬間、子どもの頃に帰った気がしました。

毎日、いろいろな方と出会い、交流するたびに自分が成長している気持ちになることができます。妹背牛町に来て私は貴重な体験をし、楽しく勉強しています。



小学生との国際交流事業

【妹背牛町で出会った母国の人】

妹背牛町はとても小さなマチですが、ベトナム人は41人いて、技能実習生や特定技能のビザで日本に来了います。しかし、みんなは慣れない日本語という「言葉の壁」に直面しています。言葉や文化の違いにより、職場の人との意思の疎通ができていないことがたくさんあるので、少しでも日常会話を話せるようになるために、日本語勉強会を月に2回開催しています。

また、4月からは妹背牛町の観光施設「妹背牛温泉ペル」にインターンシップでベトナムの大学生が実習に来ます。技能実習生だけではなく、インターンシップ制度も活用している妹背牛町は、ベトナムととても深く関係があると感じました。妹背牛町で出会った母国のみんなはとても一生懸命仕事を頑張っています。ベトナムに帰る前に、妹背牛町でたくさん良い思い出を作りたいと私に言っていました。私はできる限り努力してベトナム人のイメージを良くすることと、みんなの思い出作りを手伝いたいと思いました。

妹背牛町にたくさんのベトナム人が住んでいるため、私は一度も寂しいと感じたことはありません。いつでもそばに友達がいて、お互い家族のように何でも

相談し合っています。みんなと一緒にベトナムのお正月「テト」を過ごした時間は忘れられない思い出になりました。



技能実習生と日曜日に行う勉強会

【今後に思うこと】

「何のために生まれてこなければならぬのか」。私は昔からこのことを疑問に思っています。でも妹背牛町に来て、いろいろな方と関わってからこの答えが分かったような気がします。人は一人では生きていけない。生きるため、誰かに助けてもらい、誰かを助けてあげることが必要であると感じました。私は毎日、誰かの役に立つと信じ、頑張っています。しかし、周りの協力者がいなければ今の自分も存在しないと思っています。私の任期3年間、妹背牛町で一緒に暮らしているベトナム人をサポートして、皆さんから頼られる存在に成長したいと思います。

私は昨年10月から妹背牛町に来ましたが、妹背牛温泉ペルはリニューアル工事のため、1年間休業していました。今年の4月からリニューアルオープンするので、とてもワクワクしています。ベトナム人の友達を誘って、日本の温泉文化を体験したいです。皆さんもぜひ妹背牛町に遊びに来てください。お待ちしております。



妹背牛温泉ペル「バレルサウナ」を楽しみにしているフォンさん